

法然上人のご法語 第十三 一行得失（前）
「ぎやうとくしつ」

往生の行、多しといえども、大いに分ちて二つと
し給えり。一つには専修せんじゆ、いわゆる念仏なり。二つ
には雑修ざっしゆ、いわゆる一切のもろもろの行ぎやうなり。上かみに
いう所の定散等じやうさんとうこれなり。

往生礼讚じやういざんに云く、「若し能く上の如く念々相續ひつみちう
て、畢命を期とせば、十は即ち十生じ、百は即ち百
生ず」。専修と雑行ざっぎやうとの得失なり。

得というは、往生することを得。謂いく、「念仏する
者は、十は即ち十人ながら往生し、百は即ち百人な
がら往生す」というこれなり。

失というは、謂く、往生の益やくを失えるなり。雑行
の者は、百人が中に稀まれに一二人往生する事を得て、
その外ほかは生ぜず。千人が中に稀に三五人生まれて、
その余よは生まれず。

上にいう所 〓この法語は『法然上人行状絵図』よりの抜粋である。この文の直前に「定散」についての記述がある。

定 〓 定善。妄念を取り除き、心を統一して極楽浄土の様子や阿弥陀如来、

観音菩薩・勢至菩薩のお姿を心に想い描く瞑想修行。

散 〓 散善。通常の心のまま、悪をとどめて善を行う修行。不殺生などの戒

をたもつ、読経や親孝行など。

畢命を期とせば 〓 命を終えることができれば

(参考) 〓 法語第十二

聖道門 〓 自力の修行を積んで、この世で覺りを開こうとする道

浄土門 〓 阿弥陀仏の救いを信じて、極楽浄土に導いて頂こうとする道

雑行 〓 正行以外のもろもろの行

正行 〓 ① 心をひとつにして『浄土三部経』(四誓偈など)を読む

② 心をひとつにして極楽浄土や阿弥陀仏のお姿を想い描く

③ 心をひとつにして阿弥陀仏を礼拝する

④ 心をひとつにして「なむあみだぶつ」ととなえる

⑤ 心をひとつにして阿弥陀仏を誉めたたえ、供養する

助業 〓 ④以外の四つの行ない

正定業 〓 ④ すなわち念仏をとなえる